

ア ナ

マ イ

る

ム 舞

ハ



Adult Only

涙 穴 庵



ア ナ

マ イ

る

舞

式

庵 穴 涙

一月三十日…… 魔物との戦いに敗れた私は  
奴らの世界へと引きずり込まれてしまった……

朦朧とした意識が回復した時には……

すでに蠢く触手に四肢を絡め取られていた……

頭の中に魔物たちの意識が流れ込んでくる……

「私を肛虐奴隷に堕とす」……

必死に抵抗するものの、魔物との戦いで傷ついた体では

抗うことも許されない……

肛虐の夜は……始まったばかりだった……

宙に吊り上げられ、スカートをたくしあげられる……  
そのまま素早くショーツもずりおろされた……

そして……ゆっくりとお尻の肉が割り開かれる……

私のもつとも見られたくない部分……  
祐一にも見せたことのない……お尻の穴が…… 生温かい空気に晒された……

触手たちは……まるで私のお尻の穴を視姦するように

ゆっくりと蠢いている……

晒されたアナルは……ねっとり絡みつく空気と

これからされることへの恐怖でひゅくひゅくと収縮してしまう……

それが……触手たちの猥欲を煽っているのが…… 伝わってくる……

触手にお尻の穴をねちっこくほぐされる…  
入口の括約筋を中心に…ほじくりこねくり掻き回される…

ゆっくりと…時間をかけて…とろとろになるまで責め弄ばれる…

触手の粘液のせいか 私のお尻の穴もそれに反応して…  
感度がどんどん増してしまう…

だめ…気持ちいい…

一時間以上たつぷりと責めほじられたアナルを広げられる…  
蕩けきった括約筋から、悦楽の信号が全身に伝わっていく…  
もの欲しそうにぱくくりと口をあけたお尻の穴の奥から…  
いやらしい牝の臭いがむわむわと湧き上がってくる…

祐…助けて…

いよいよ魔物とアナルセックス…  
極太の触手が… 弛緩しきつたお尻の穴を割り広げて侵入してくる…

あまりの大きさに括約筋がミチミチと悲鳴を上げる…  
それでも、さっきまでのアナル弄りで感度をあげられたお尻の穴は…  
その刺激を快感として全身に伝えてしまう…

私のお尻の穴の一番深いところまで挿入され…  
一気に引き抜かれる…

激しいピストンが始まり…  
お尻の穴の感度がどんどん高められていく…

誰も侵入したことがなかった私のお尻の穴の奥が…  
触手によっていやらしく開発されていく…

最後の一突き… 一番深いところまで挿入されて…  
射精…される…

熱い… お腹の奥が火傷しそう…

見えなくても感覚が伝わるほど  
熱くて… 濃くて… 臭くて…  
ねばついた子種汁をアナルの奥に  
吐き出される…

初めてのその快感に…  
私も絶頂まで導かれてしまう…

初体験するアナルアクメに私の頭は真の自になる…

すごっ…い… お尻の穴…焼けるみたい…  
こんな… こんなすごいのを教え込まれたら…  
ダメになる… 肛虐奴隷にされてしまう…

定まらない意識の中、新たな触手がアナルにあてがわれる…

これが…触手による肛門開発の始まりだった…

ボールが連なったような触手にアナルを開発される……  
ひとつひとつじつくりとアナルに挿入され……  
そして一気に引き抜かれる……


そしてお尻の穴が閉じる間もなくまた挿入される……

腸壁がごりごりとボールに擦られているのがわかる……  
ごりゆつと中を削ぎ落とされるたびに  
私のお尻の穴軽い絶頂を繰り返す……

一度アナルアクメを教え込まれてしまった体は  
触手の責めに敏感に反応してしまふ……

また最奥までボールが挿入され……引き抜かれる……  
目の前が真っ白になり……  
一際大きな肛門絶頂を迎えてしまふ……





この日は：イボイボがたくさんついた触手…  
括約筋をふるふるで弾きながら挿入される…

直腸全体：様々な方向に刺激を与えてくる…  
それが肛門から全身に広がり… 大きな悦楽を脳に響かせる…

抽送が開始されると… 直腸全体が引っ張り出され  
奥に捻り込まれるような感覚が私のアナルを襲う…

激しい快感に… 私は思わず嬌声を上げてしまう…



カメラ付きの触手にもお尻の穴を開発調教される…

私のいやらしいアへ顔… 触手を啜えこんで快感に震えるお尻の穴…  
ぬぼぬぼ犯される直腸の中まで画面に映し出される…

触手たちは…私の体…お尻の穴だけでなく…  
精神まで肛虐奴隷に随とそうとしてくる…

画面に映し出される私の淫らな牝の表情を見るたびに…  
私の心は…どんとどんと快楽に蝕まれていく…

そして…今日もアナルアクメを迎えてしまう…

お尻の奥だけでなく、お口にも…。体全体にも触手たちのザーメンの味を教え込まれる…。

ゼリーののように濃い黄ぼんだ子種汁が…。私の顔を覆っていく…。  
お口を犯していた触手からもザーメンが発射されて…。苦いザーメンをお口の中に溢れさせる…。

すごく…。臭い…。頭がくらくらする…。獣欲にまみれた…。牡の臭い…。

触覚 味覚 嗅覚…。こちらに向付けられたたくさんの龟头は視覚を犯して…。  
にちやにちや どぶどぶ 溢れ出る粘液の音が聴覚を犯す…。

五感全部全てに…。触手たちのザーメンが塗り込まれていく…。

いろんな触手に…  
いろんな方法で…  
私のアナルは柔らかく…  
でも中はぎゅうぎゅうに締め付ける…  
そんないやらしい穴に開発されてしまった…

何度もアナルアケムを迎えて…  
ザーメンの味を覚えて…  
ケツマンコ便器に…  
調教されてしまった…

助けて祐一… 私…  
本当に肛虐奴隷に…  
されちゃう…

何度お尻の穴で絶頂を迎え、  
ザーメンの味に愉悦を感じても…  
まだ祐一のことを思い出し…  
肛悦に抗う心は残っている…  
でも…この心まで開発されつくしてしまったら…

私は…  
完全な肛虐奴隷に…  
堕ちてしまう…

魔物たちは…いよいよ私の心を完全に犯しにきた…  
犬さんの体を形作り… 私のお尻の穴を獣姦するつもりらしい…  
首輪をつけられ ギンギンに勃起した獣ペニスを見せつけられる…

すごい… あんなに…嬉しいの…

屹立する牲の象徴に  
私のお尻の穴はきゅんと反応してしまっ…

だ…め… お尻の穴が欲しがってる…  
犬さんのおちんちん…なの…に…っ

キスを求めるように舌で顔を舐めまわしてくる…

犬さんの形… 獣に犯されることで…  
獣以下の烙印を私の心に刻み込むつもり…

心まで…肛膺奴隷に堕とされる…

犬さんに唇を奪われる…  
そして…くちゅくちゅと舌を絡ませられる…

すごい…えっちなキス…  
こんなキス…祐一ともしたことがないのに…

私の口の中を蹂躞し、心ごと絡め取っていく犬さんの舌…

祐一以外と…人間以外とするキスは…  
私の心を蝕み 快楽の中へと引きずり込んでいく…

お尻の穴も犬さんに舐め解される…  
一舐めされるたびに…絶頂を迎えてしまう…

心も体も…犬さんの色に染め上げられてしまった…

もう…だめ…えっ

そして… 犬さんとついにアナルセックス…

硬くて太くて遅い犬さんのおちんちんが…  
私のお尻の穴をぬぶぬぶ犯してくる…

すごく激しいピストン… これが… 獣のセックス…  
私のお尻の穴のことなんか考えない… 乱暴な腰使い…

すご… いっ 私のアナル…  
犬さんのザーメン便器にされてる…

おちんちんが… 奥まで…

だめ… 悦んでる…

私のお尻の穴…  
犬さんに犯されて悦んじやってる…

祐一よりも… 何倍もすごい腰使い…  
アナル獣姦を教えこまれていく私のお尻の穴…

禁忌を犯しているという感覚が… 私を絶頂まで導いていく…

もう… だめっ イクッ イキますっ  
犬さんのケツマンコ便器にされて… イキます…

奥まで挿し込まれた犬さんのペニスがびくびくと弾け……  
どぶどぶと獣ザーメンが注ぎ込まれる……

この瞬間…… 私の心は完全に堕ちた……

肛虐奴隷に……なってしまうた……

激しい絶頂の波とともに  
祐一の顔が浮かび……

そして消えていった……

後に残ったのは……絶頂の余韻と……  
犬さんへの……魔物への愛しい気持ち……  
牝に屈服した牝の感情だけだった……

犬さんのザーメン…… 熱い……  
それに……すごく……濃いのがわかる……  
お腹の中でどぶどぶ波打って……  
う……あっ な、なに……  
根元が膨らんで…… ひいっ……

犬さんの射精……  
獣のセックスの本番は……ここからだった……



犬さんのペニスの根元が膨らみ… 私のお尻の穴から抜けないようになる…  
どンドン直腸に注ぎ込まれる精液… すごい… 全然… 止まらないっ

ゆっくりと時間をかけて… 私のお腹は犬さんのザーメンで満たされていく…  
完全に肛膣奴隷になった今では、その刺激、その行為全てに快楽を見出してしまっ…

あつ…あうう…っ すごい… こんな射精… 初めて…  
だめえ…お尻の穴…っ だけじゃなく…内臓まで…  
全部犬さんのザーメンの臭い… 味も…  
みんな覚えちゃう…っ

注ぎ込まれた精液で私のお腹は  
ぼっこりと膨らんでしまっている…

犬さんのように四つん這いで片足を上げた姿…  
まるで…犬さんの子供を妊娠しているみたい…

そう考えた瞬間… 意識は絶頂とともに闇に沈んでいった…

それから私は…自分から魔物たちに…  
肛虐奴隷である私のご主人様たちに…おねだりするようになっていった…

今日は体操服姿でご奉仕…人型になったご主人様たちの…  
嬉しいペニスをべろべろ…おいしい…

ちゅっ…ちゅぽっ  
れろっ  
れるれるっ  
ん…ぶっ

淫らな音を立て硬くて太いペニスに舌を這わせる…  
鈴口から溢れる先走り汁も…全部舐めとっていく…

んっぶ…くぼっ…ちゅっ…ちゅっ…ちゅっ…ちゅっ…ちゅっ…ちゅっ…

ペニスから口を離し上目遣いで懇願する…

ご主人様…今日もアナルをたっぷり可愛がってください…

ブルマのお尻の穴の部分には四角く穴があいていて  
ご主人様たちにすぐに可愛がってもらえるようになってい

ご主人様たちにうつつ伏せに挟まれ： お尻の肉を割り広げられる：

今日は極太ペニス二本挿しで私のアナルを犯すらしい：

すごく…楽しみ…

私のお尻の穴はもうペニスを飲み込む準備ができている…

とろとろに蕩けて… むわむわといやらしい臭いを出して…

これからされることへの期待で…ひゅくひゅくと収縮を繰り返している…

二本同時に挿し込まれ… 激しくピストンされる…

あつあつ… あ…ひっ すごつ…いっ お尻の穴…っ 広げられちゃってる…っ  
私のケツマンコ… ご主人様のペニスでいっぱいになってる…っ  
ひっ…ひいっ 壊れる… 壊れちゃううっ アナル便器壊れちゃいますううっ

お尻の穴の入口が限界まで広げられ…  
二本のペニスが交互にアナルの奥を掻き回す…

遠慮のない抽送に、アナル感度は急速に高められていく…

あひいっ イクツ イキますっ ケツマンコアクメ…ッ

肛膣奴隷川澄舞っ イキますうっ

私が絶頂に達すると同時に、ご主人様たちも射精する…

また…ぶるぶるの濃いザーメンが私のお尻の奥に発射される…

この瞬間だけは…何度味わっても飽きない… 最高の一瞬…

ご主人様の舌が…私の舌に絡みついて…  
だらしないアナルアクメ顔を  
より一層いやらしいものにする…

絶頂で震える直腸壁がペニスをさらに締め付け…  
その刺激にまたアナルアクメを迎え…  
アへ顔を晒してしまう…



ご主人様たちに抱えられ… ザーメンがとろとろ溢れ出すアナルを晒される…  
この映像を「ゆういち」という人へ送るらしい… 「ゆう…いち」…?

そう…「祐一」… 貧相なペニスをぶら下げた男…

自分の彼女が魔物にさらわれたのに…助けにも来ないで…

魔物に彼女を寝取られてしまった… だらしない男…

祐一… 見える…?

私は今…魔物たちに肛膣奴隷として仕えている…  
今日もたっぷりお尻の穴を可愛がってもらった… すごく…気持ちよかった…

私は魔物に…寝取られてしまった… 祐一のもとには…帰れない…

まだまだたっぷりお尻の穴を犯されるから… きちんと見てね… 私の…アナルアクメ…



気の遠くなるくらい時間…… 数え切れないほどの肛交……  
何度も何度もアナルの奥にザーメンを注ぎ込まれ…… ついに私は……

直腸でご主人様の子どもを妊娠した……

膨らみ、ポテ腹になった私のお腹…… その奥で子どもたちが蠢いている……  
腸壁を擦りあげ…… んっ…… もう私の体を味わっている…… かわいい……

今日が出産予定日……  
抱え上げられ、丸出しになったお尻の穴から……  
もう一番目の子が顔を出している……

ん……ひっ…… あっ……お腹……っ  
生まれる……るっ 触手赤ちゃん……  
グルグルって……  
出産しますっ

ぶりゅっ！ ぶっぶっ ぶりゅりゅりゅっ…

まるで排泄のような音を立てながら… 子どもたちが出産されていく…

ひとり…またひとり… 括約筋を弾きながら出ていくたびに…  
目の前が真っ白になって… 嬌声を上げながら絶頂を迎えてしまう…

子どもたちには産湯の代わりに… 私の愛液がかけられる…  
子守唄の代わりに… 私のアへ声を聞かされる…

すぐく…素敵な瞬間…

肛門出産と…アナルアクメ…両方楽しめる…



子どもたちが私の周りに集まってくる…。かわいい…。

私も…今日からお母さん…肛膺母親奴隷…

しっかり…お尻の穴でこの子たちにご奉仕しないと…

そう…しっかり…お尻の穴でご奉仕するから…

お母さんのアナル…

たっぷり可愛がってね…

こんにちは、初めての方ははじめまして、涙目と申します。  
この度は「穴る舞式」を手にとっていただき、ありがとうございます。  
今回は2度目のサークル参加ということで、前回よりもページ数を増やした訳ですが… スケジュールの都合上、結局またイラスト+テキストという形になってしまいました。  
それでも精一杯頑張りましたので、お気に召していただけただけのなら幸いです。

またしてもアナルメインというか、アナルオンリーです。  
尻一筋は継続中です。こうなったらもういけるところまでいってやろうかと思っていたりします。  
精進精進ですね。  
そんなこんなな感じで生きていこうと思ってます。

次回参加予定のイベントは2009年3月の例大祭になりそうです。  
その次は夏コミだと思われそうですが、スケジュールと折り合いをつけながらになるかと思えます。厄い。  
色々不安要素が多いようですが、これからも涙目並びに「涙穴庵」を御最屑にさせていただきますよう…  
よろしくお願いします。

最後に、次ページからゲスト様の原稿となります。

bbsacon様 (黄泉比良坂) <http://bbsaconneo.sakura.ne.jp/>

695様 (六阪通り) <http://6saka.sakura.ne.jp/>

ページ配分上こんな変則的な配置になったことをお詫び申し上げます。  
でも超えろい！えろすぎるな！！  
最後までお楽しみください。

涙目。



SPECIAL THANKS (順不同・敬称略)

bbsacon (黄泉比良坂)

695 (六阪通り)

hato (Heart's nest)

舞と夜の密会が祟ったのか  
俺は風邪をこじらせてしまい  
学校を休んでいた  
しかし一週間も経った頃には  
熱も下がっており、明日からは  
登校も許される事となっていた  
まあ要するにもう治っている訳で  
寝てばかりの生活からのリハビリも兼ね  
一週間ぶりに学校へと向かっていた...

「魔を討つモノよ  
どうやら貴様の男が  
コチラに向かっているようだぞ」

ほう...男の話の話を聞いただけで  
オマエの腸腔壁が淫らに蠢きだしおったか  
淫魔豚化した肉が雄を求めておるわ

ククツならば更に孕ませてやろう  
この淫らに華ひらいた随腹腔に  
たっぷりと種付けしてやるぞ  
貴様の愛した男の前で受胎アクメに  
ヨガリ狂うがいい

ククツ

ククツ

ククツ

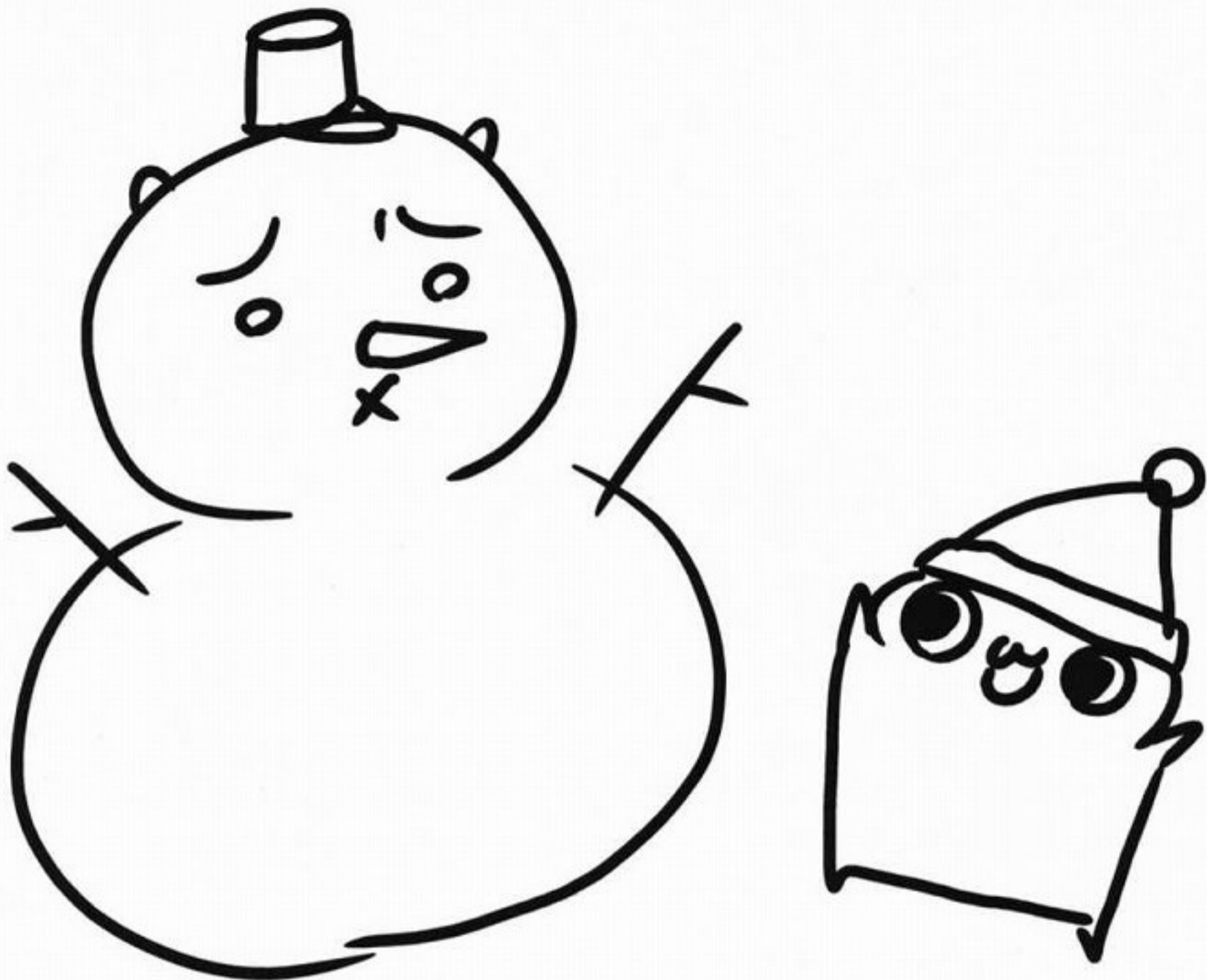
んっ

んっ

ふぁあぁ

695  
①①





「穴る舞弐」

奥付

発行日: 2008 / 12 / 30

出版者: 涙目(涙穴庵)

HP: <http://green.ribbon.to/~namidame/>

連絡先: [namidame-heaven@hotmail.co.jp](mailto:namidame-heaven@hotmail.co.jp)

印刷: PICO様

未成年の閲覧並びに  
無断転載禁止!



涙

穴

庵